

此處には伊太利人、獨逸人、其の他の移民の子供や、黒人の子供が居ります。汚ない子供等で、毎朝先づ垢にまみれた顔を洗つて、髪を結つてやるのでございます。傳習所を卒業しますと、是非一度は貧民幼稚園に汚ない子供等の面倒を見てやる其の辛抱が出来なければ、保母の資格はないものと申されて居るのでございます。(文責記者)

家庭叢話

光藤 ふで

○生母は生兒を直接教育するが尊き天職なる事

今更事新しう申すまでも御座いませぬ、我が兒を我が手で育てるのは誰れも承知いたして居る事で御座います、社會の事は段々複雑になつて來まして、當然の道理と知りつゝも其れを行ふ事が出来ない場合も澤山ありまして、生存競争が日一日と盛りになりますにつれ、母となりても、我が家

に居て我が子を教養する事が出来ない場合も出來て來ます、即ち夫婦共稼ぎの方などは好適例で、或は新聞社に、或は學校に、或は會社に、纖弱き女の身を以て男六尺の男子と競争し、或は大男を使役さるゝ敏腕を振はれる人も御座いませう、女子教育の進歩と見ればさも解決も下されませんが、之が果して社會の慶すべき現象か否かは容易に判断を下す事が出來ません、出來ませんが星移り年變る世の變遷亦如何ともする事が出來ませんが、私は生母が生兒を養育する責務を負ふといふ事は、萬古より將來如何に世が變つても、變る事のない事と信じます、又變るべきものではないと存じます、若し昔時の大名豪家の如く生めば之を乳母に渡すといふ如きは、實に變則な仕方、天然ではあるまいと存じます、現時でも或は金あるにまかせ、之が面倒を見るを厭ふて、人に養育させる人もありますが之等は皆母としての大任を盡す事の出來ない不具同様の人として差支なからう

と存じます、又良人を助けて少しでも生活の資を得る方が経済も豊で、一家の人が喜ぶといふ様な考で、我が愛児を人に托して自らは公共の事に身を委ねらるゝ方もありませう、或は下流の階級では、工賃を得ん爲めにと子を人手に預けるもありませうが、之は比較的少ないでしよう、なせならば我が一日汲々として得る所は極少額で、人手に預けなどしては差引得る所は少い爲め、また上流の奥様が乳母等に預けらるゝ、昔の風は餘程廢れて、段々自己の手で育てらるゝ傾向を以て來ましたのは、確かに教育の進歩と申して宜しいでしょう、只中流以下にありて中流或は中流以上の生活を營まん爲めに、可惜黄金にも玉にも換へがたき子實を人に預けて、何物を以ても購ふ事の出來ない親子のうるはしい愛情をなげうたるゝは、悪く申さば物質の慾望にかられて、真正にして、しかも何物を以ても買ひ得ざる尊き愛情を犠牲にする自然に反したる行爲と見ても差支はあるまいと存

じます、已に子の無き時より或は學校に、或は會社に職を奉じて種々の情實やら、義理などが出來て、今子が生れしとて、すぐに退きがたい場合もありませう、一年や二年ならばまだしも十年も十幾年も其の校にありて、我が家庭は殆んが鴉がねぐらを求めて歸る位な緣故に深い學校で、土地の人からは望を囑され居るといふのに、今我が兒が生れしとて、すぐに退いて家庭のみに蟄居するのは、おもしろくないなど、思ふ人もありませう、様々なる世に、色々なる考はありませうが、一方我が身にも換へがたい愛子の生れた上は、如何なる地位も、如何なる名望も、如何なる抱負も皆潔く捨て、只此の愛児を鞠育し得らるゝ、家庭の賢母となるべきであります、荏髯久しきにわたりにて、産後の身を以て、社會の爲め、公共の爲、専心盡力したとて、どれ丈の成績があがませうか、願れば我が愛児は人手に育てられて、生長はして居りまして、其の心母親の恩愛に浴するの機少く、

甚しきは其の心身の發育を妨害されつゝある事さへ珍らしくないではありませんか、この眞の母子の愛情の糸の濃かさ、あたりまへといへば、あたりまへで御座いますが、實に一種靈妙不可思議な味があると私は信じます、世の中の諺に馬鹿な子ほど可愛いと申しますが實に此の愛情は他のあらゆるすべての愛情と趣を異にしておる様に思はれます、接すれば接する丈愛情の度は深く濃く、見れば見るほど可愛は増すばかり、如何なる強き力も此の愛情を割く事は出来ないであります、世の多く我が兒を誤るのは此の愛に溺れた結果も澤山ある事であらうと思ひます、そこで我が兒は他人に育てさすると却て好結果を得る事が出来るとの愚論さへ出て來るのであります、滅相もない事として、眞の愛情のない他人に預けて、立派な成績を擧げる事が出来ませう、なせならば、申すまでもなく、眞の愛情がないからであります、眞の愛情のない他人に預けて、立派な成績が

上ると思ふのは間違で御座います、よし如何により高い教育眼のある人でも、この外部より味ひ知る事の出来ない愛の糸、この尊き美しきえにしがなく、どうして愛兒の命にかへて、我が一命を召され、この堅い決心が出来ませう、愛兒の危きを見ては、我が一身を捨て、もと祈る心のあるらばこそ、平日とても老の其の身を忘れて愛兒の爲に浮苦勞するのではありませんか、此の心がなくして、乾燥した、薄い愛情の他人が如何に教育眼を有して居ても人の子を預りて、立派な成績が擧げ得らるゝものですか、御覽なさい、身を切るばかりの寒夜嬰兒が便を訴へて泣くの時、ぬれては身體を傷はんと飛び起きて其の用を足すのは、血を分けし父にしても、已に苦痛の色があるではありませんか、況してや、生さぬ中に於ておやで、眞の愛情のない人の中々出来る仕事ではないのであります、それでも其の子を預りて我が懷に育てる責任を負へば、何でもないとはいふものゝ、之

れは理窟でありまして、實際感情上に於て、眞の母親と差のある事は勿論であります、又子供がいつも保育者の氣に入る様にばかりすればよろしいが、時には無頓着なる子供の事、いかなる事をなし、如何なる事を言ひて、保育者母親の氣に逆ふ様な事があるかも知れませんが、眞の母親ならば如何なる事がありまして、其の愛情に何等の變りもありませんが、根が他人の保育者内心如何なる感じ起るかも知れない事は出来ません、いづれの點より見ましても我が愛兒を他の人に委ぬる理はありません、この慈み深い限りない愛を持てる母親が教育眼を高くすべく、日にとめて、我が兒の前途を樂むべきであります、我が身は時勢の流行を追ふて、輕衣を着輕車をかつて、社會公共の事に手腕を振ひ、入つては下女下男に冊づかれ、一方の輿望を双肩に擔ひ、意氣揚々として、心竊に、其の働きのあるを誇らるゝの時、金にも玉にも換へがたいとし可愛の幼子が、他人の手

で如何なる發育を遂げつゝあるかを思はるゝ時に果して如何の感じが泛ぶでせうか、昔からばあさん子は、三文易いとか、已に血統の連る祖母でさへ、充分な教育は出来ないのに、之を赤の他人、教育あるものならば兎も角、無智無教育なる下婢等に托して、如何に多くの俸録を得て、花々しい生活に浮身をやつしても、其の損失は如何で御座いませうか、況や手腕なき母様をやで、一體なべての有様を申しますれば、學校等に出て働くのは、女子としては華々しい生活で御座います、内にあつて千遍一律の事をくり返すのは質素な仕事で御座います、丁度前者は爛熳と咲きほこれる櫻花にもたとへられませう、後者は冬の山茶花にも比べられませう、虚榮強い女子の前者を取りて後者を退くるは止を得ないとは申せ、實際變則なやり方と存じます、子のない中は兎も角、櫻と見らるゝも宜しからんが、已に離る事の出来ない嬰兒を持ちては、山茶花の冬に咲ける趣を實現して、如何

に人目はひかずとも、見すばらしくとも、家庭に入つて其の王となり、専心家事を治め、子女を教養すべきものであります、我が一身は我が身の勝手と理窟をつけければ、ドンナ理窟でもつきますが、實際我が一身は此の一塊肉は、祖先の血を受けて生れ出で、又之を將來に傳ふべきものである事を思ひますれば、其の將來の子孫の祝福を圖る爲め、其の繁榮を願ふ爲め、自己の抱負も、地位も、名譽も、犠牲にして之に盡すといふのは、一步進んだ考ではありますまいか、どうしても我が身で生みし程の子ならば、我が手で育てる重い責任があります、其の責任を盡されないのは、眞の母様ではありません、立派な母様とは申されません、或は自己の働ある爲めに人手に預けられるのは、尊い何物でも求める事の出来ない立派な愛の糸を以て、物質にかへらるゝので實に惜しみて余ある事と存じます。

保姆のすゝめ

双葉幼稚園 後藤りん

三八

○ 幼児を保育するにも終始勸語の御主旨を忘れざる様心懸くべきこと

○ 幼児を保育するには、なるべく、天真爛漫なる美情を、そこなはざるやう

○ 幼児をとり扱ふには、出來うる限り、家庭的が宜しい

○ 幼稚園の目的は幼児の心身を圓滿に發育して且つ又善良なる習慣を得せしめると云うことを忘れぬやう

○ 習慣は第二の天性と云つて、將來の能力及幸福の基礎、幼児にとつては實に大切でありますから正直、獨立、忍耐、服従、規律、秩序等は時宜につれて知らず識らずのうちに程よく躱けられたきもの

○ よく、幼児の個性を觀察して心身の圓滿並に